

# 大人向けワクチン どう活用

## 費用助成、自治体で広がる

冬は様々な感染症が流行する。高齢者特に危険な季節性インフルエンザや肺炎球菌はワクチンの接種で感染や重症化を防げる。定期接種が大半の子ども向け感染症ワクチンと異なり、大人向けは費用を自己負担する任意接種が多い。だが一部を助成する動きが自治体で広がる。上手に活用したい。

「高齢者は命を落とすリスクがある。肺炎球菌と季節性インフルエンザが肺炎球菌と季節性インフルエンザのワクチン接種の対象だ。接種してほしい」。東京大学医学部研究所の四柳宏教授は強調する。

この種類の感染症は「飛沫」を吸い込むことでもうつる。感染者が近くに接する接触感染に比べてリスクが高い。国立感染症研究所によくとらえ、2023年12月時点で20歳以上が接種できるワクチンは約20種類あるが、四柳教授は「なかでも」の3種類は予防接種の推奨度が高い」と話す。

予防接種には法律に基づき市町村が主体で実施する定期接種と、希望者が費用を全額負担する任意接種がある。定期接種は公費の助成で無料か安価に受けられる。定期接種が大半の子ども向けワクチンと異なり、大人向けは費用を自己負担する任意接種が多い。だが一部を助成する動きが自治体で広がる。上手に活用したい。



新型コロナ向けで国産ワクチンの接種も増え始めた

接種が大半の子ども向けワクチンと異なり大人向けには任意接種が多い。だが肺炎球菌と季節性インフルエンザの一部の高齢者を定期接種の対象だ。接種してほしい。東京大学医学部研究所の四柳宏教授は強調する。

この種類の感染症は「飛沫」を吸い込むことでもうつる。感染者が近くに接する接触感染に比べてリスクが高い。国立感染症研究所によくとらえ、2023年12月時点で20歳以上が接種できるワクチンは約20種類あるが、四柳教授は「なかでも」の3種類は予防接種の推奨度が高い」と話す。

予防接種には法律に基づき市町村が主体で実施する定期接種と、希望者が費用を全額負担する任意接種がある。定期接種は公費の助成で無料か安価に受けられる。定期接種が大半の子ども向けワクチンと異なり、大人向けは費用を自己負担する任意接種が多い。だが一部を助成する動きが自治体で広がる。上手に活用したい。

接種時期	ワクチン	対象年齢	備考
定期接種	肺炎球菌	60～64歳の一部、65歳(今年度末までは経過措置あり)。	接種回数
定期接種	季節性インフルエンザ	60～64歳の一部、65歳以上。	毎年1回
臨時接種	新型コロナウイルス	全ての人に	KM/イオロジクス提供
任意接種	带状疱疹	50歳以上、免疫不全など50歳未満のリスクの高い人は不活化ワクチンを。自治体によって補助あり	
任意接種	破傷風	免疫のない人は初回3回、その後10年ごと	
定期接種	風疹	23年4月1日時点で44～60歳の男性で抗体が少ない人。クーポンを使用	

ワクチン	対象者
B型肝炎	慢性肝炎患者の患者、透析患者や医療従事者など、体液に直接触れる機会のある人
ヒブ	子どもと接する機会が多い高齢者、けがや病気で脾臓を摘出した人
水痘	子どもと接する機会が多い人や医療従事者
おたふくかぜ	流行国にいく予定のある人
日本脳炎	流行国にいく予定のある人

